

手は第2の脳ともいわれる。実際、芸術の創造はほとんど手を通して行われ、天才は手で考える、ともいう。スポーツの多くも手の役割が重要だが、競馬——騎手の場合も、馬たちに意思の伝達をする手綱の操作——手の感覚が何よりも大事だと、名騎手から秘密を聞いたことがある。疾走する馬上で、馬銜に通じる手綱はふんわりと握り、微妙な感覚で馬に意思を伝えるからだ。

昭和56年に来日したアメリカの天才騎手、W・シユーマーカーと握手をしたら、そのとき彼はすでに40歳を超していたのに、掌はマシマロのようにふんわりとして、まるで幼児のような手だった。

さて、「手相までわかっちゃうようだよだな」と、いやがる日本の名騎手、岡部幸雄さんをお願いして撮影したのがこの写真である。歴代通算最多勝利の2017勝を達成した、いわばこれは「神の手」である。

46歳になったというのに、日本の名騎手の手も、シユーマーカーの掌のように、やわらかくふんわりとしていた。名騎手の秘密はやっぱり手にあった!?

(H)

2017勝の手。

歴代最多勝利を記録した岡部幸雄騎手

